

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 2月 14日				
放課後等デイサービス事業所ならはし		職員の回答数 7名				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	指導訓練室、静養室等4部屋あり、活動等によって部屋を使い分けている。また、ホールを使用し、運動療育、集団あそび等、一人ひとりの課題に応じたねらいをもとに、様々な活動を工夫して取り入れ、一人ひとりの発達支援に努めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	管理者兼児童発達支援管理責任者1名、児童指導員(保育士)6名、事務1名。職員の配置基準を超え、十分に配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	子どもたちの動線を考え、快適に生活できるように日々環境改善に努めている。	トイレのバリアフリー化ができていなく、様々な障害に対応できるように、改善していきたいと考えているが、現状は支障がない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・日々、玩具や備品等の消毒及び掃除等を行い、清潔を保てるように努めている。 ・指導訓練室、静養室等4部屋あり、活動等によって部屋を使い分けている。また、ホールを使用し、運動療育、集団あそび等、一人ひとりの課題に応じたねらいをもとに、様々な活動を工夫して取り入れ、一人ひとりの発達支援に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	複数の部屋があるため、必要に応じて、個別に使用し、一人の空間を保障できるように対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	毎日の職員ミーティングで振り返りを行い、計画の見直しや支援の仕方などを話し合い、業務改善に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者等向け放課後等デイサービス評価表を活用し、保護者の意向の把握、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	管理者及び事務と職員との面談を定期的に行い、業務改善に繋げるよう努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		今後検討していく。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	障がい児成長支援協会の会員となり、「感覚統合の基本」「生活支援の基礎」「運動療育」「危機管理」「人権と虐待」「応用行動分析学」「特別支援が必要な子の進路の話（進学・就労について）」等、様々なテーマの研修に月に1～3回参加し、職員の資質向上に努めている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	ホームページURL→ http://ho-day-narahashi.com にて、支援プログラムを公表している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	必要な情報を丁寧に聴き取り、個々のニーズや課題を整理し、一人ひとりに合った個別支援計画の作成に努め、具体的な支援に繋がるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	放課後等デイサービス計画を作成する際には、子どもの支援にかかわる職員全員でサービス担当者会議を開催し、子どもの発達の過程や障害特性に応じた発達上のニーズの把握等、共通理解し、5領域の視点を網羅した個々の子どもに応じたオーダーメイドの支援ができるよう検討を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	計画を職員間で共有し、活動・療育等の内容や支援の方法を検討し、計画に沿った支援ができるよう努めている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	標準化されたアセスメントツールを基に、収集すべき必要な項目を選定したアセスメント用紙を作成、一人ひとりの状況の把握に努めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	定期的にあセスメントを行ったうえで、本人や保護者のニーズに合わせた個別支援計画を作成できるよう努めている。	今後もガイドラインの項目をよく確認し、本人や保護者のニーズに合った、適切でより具体的な目標、支援内容の設定に努める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	一人ひとりの課題に応じたねらいをともに、職員ミーティングで活動プログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	個別・集団活動、制作活動、運動、戸外活動、自然体験活動、栽培・収穫体験、季節の行事等を組み合わせ様々な経験ができるよう工夫している。	
適切な支援の提供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	子どもの発達段階に応じた個別、集団における課題を把握し、個別支援計画に反映させている。	子どもの発達や課題に合わせ、苦手意識のあるものも自信へと繋がっていく支援ができるよう、今後も様々な知識やスキルを職員が身につけていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎朝、職員ミーティングを行い、昨日の振り返り、支援の内容、活動内容、役割分担等を確認している。	

21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	支援終了後にミーティングの時間をとれないため、翌朝のミーティングで行うようにしている。特別な事項があった際は、その日のうちに情報共有できるようにしている。報告・連絡・相談を密にし、チーム支援に努めている。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	職員間で共有した情報を基に、利用者個人の支援記録を毎日作成し、モニタリング等に役立て、支援の検証・改善に繋がるよう努めている。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的にモニタリングを行い、事業所内サービス担当者会議で支援計画の見直しの必要性を判断している。モニタリング時、保護者と面談を実施し、学校や他事業所での様子を共有しながら、利用者の全体像把握に努めている。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7	0	1.自立支援と日常生活の充実のための活動 - 子どもが意欲的に取り組めるあそびを提供し、発達段階に合った動作を身につけたり自立生活を支援する。 1.創作活動 - 表現できる喜びを体験し、豊かな感性を養う活動。 1.地域交流の機会の提供 - 地域とのつながりを深めるための活動を提供する。 1.余暇の提供 - 子どもたちがリラックスし、楽しむための時間を提供する。 ・子どもたちの成長と発達を支援するために重要な「4つの基本活動（上記）」を意識し、社会生活を見据えた支援に努めている。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	日々の活動・療育プログラムに加え、選択制活動の時間を設け、自ら活動を選択し、取り組むことができるよう支援している。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	保護者を通して、情報共有、連絡調整を行っている。必要に応じて、相談支援専門員を通して担当者会議やカンファレンスを実施している。
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	行事予定や下校時刻、送迎時の対応などは主に保護者を通して情報を共有している。必要に応じて、学校と直接連絡をとっている。
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	利用開始前に、相談支援事業所が開催する担当者会議に参加し、情報共有と相互理解に努めている。 また、標準化されたアセスメントツールをもとに、収集すべき必要な項目を選定したアセスメントシートに情報を整理し、職員に周知している。

30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	未だ移行するケースはないが、保護者の同意を得た上で円滑に情報提供や引継ぎができるようにしたい。	
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	7		今後必要があれば検討する。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間、地域のプールに週3回通っているが、学童クラブの子どもたちと一緒にいることが度々あり、場を共有して活動する良い機会となっている。 ・ひらた里山の会協力のもと、タケノコ掘り、サトイモ苗植え、栗拾い等、様々な体験ができるように計画しているが、イベントを通して地域の方々との交流がある。 ・ボランティアを受け入れ、小学生、中学生、高校生、大学生等、積極的に地域の方々との交流を図っている。 	折を見て、交流できるよう工夫はしているが、頻繁ではない。本人や保護者の意向を踏まえ、必要であれば、交流の機会を増やすことができるよう検討する。
33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	酒田市障がい者地域自立支援協議会専門部会「児童・発達支援部会」、育ちのサポート研究会等、地域の研修に積極的に参加している。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡ノートや送迎時に丁寧に伝えるよう努めている。また、必要に応じて電話で話をしたり、面談を行い、共通理解ができるように努めている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		以前、講師の先生にペアレント・トレーニングの依頼をしたところ、ペアレント・トレーニングは短時間でできるものではなく、大概1回が90分、全10回のセッションがあり、隔週で実施されることが多いと説明を受けた。長期に及ぶペアレント・トレーニングに保護者の方が参加できるか？と考えると、短時間で保護者の方が参加しやすく、興味関心のあるテーマで講演等を計画し、参加していただく方が良いのではと考え、開催を検討する。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時に丁寧な説明を心掛け行っている。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	モニタリング時の面談で、本人や保護者のニーズを聴き取り、それに基づいた支援を考えている。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	面談時に支援内容の説明を行い、保護者の方から同意していただいたうえで署名をいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	モニタリング時や連絡ノート等で保護者からの子育ての悩みなどを伺い、事業所での様子や事業所で取り組んでいる支援の方法などをお伝えできるように努めているが、引き続き職員の資質の向上に努め、適切な助言、支援を行えるようにしたい。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	事業所主催の保護者懇談会、親子行事開催に加え、保護者主催で「お茶会」を開催していただいている。継続して開催できるようにしたい。	きょうだい向けのイベントについては、今のところ、考えていないが、親子行事等の機会に、ご家族での参加を呼び掛けていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	契約時、重要事項説明書に記載の通り、「相談及び苦情に円滑かつ適切に対応するための体制及び手順」について説明し、窓口をご案内している。今後も適切な対応ができるよう努める。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	定期的にお便りを発行し、行事や活動の様子を伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	一人ひとりの状態に応じて、あいうえおタブレットや筆談、視覚的教材等を活用し意思疎通・情報伝達に努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		ひらた里山の会主催のイベントに参加し、地域の方々との交流があるが、事業所の行事に地域住民を招待する等はしていない。今後、保護者からの要望があれば、検討していく。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	契約時、保護者懇談会時に「説明とマニュアルの閲覧」を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	業務継続計画（BCP）を策定、研修と訓練を行っている。避難訓練は年3回実施し、避難訓練の実施報告を、月のおたよりにて保護者の方にもお伝えしている。また、避難訓練年間計画を各ご家庭に配付し、周知に努めている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	アセスメント時、聴き取りをした内容を記録し、職員間で共通理解している。また、薬の変更時には、ご家庭よりお知らせいただき、処方箋のコピーをいただいている。てんかん発作がある場合は、対応の方法等をまとめた個人のファイルを作成して、送迎や戸外活動時に持参し、万が一の場合に備えている。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	7	0	必ず、利用開始前のアセスメント時にアレルギーの有無について確認している。該当するお子さんの場合は、医師の指示書に基づき対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画を作成し、研修や訓練を行っている。日々の支援の中で、安全管理、危機管理について、職員間で連携をとり、必要な措置を講じている。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	契約時と保護者懇談会時に非常時の対応について説明を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリとした場面があった時は、些細なことでもヒヤリハット報告書を作成し、今後の対応を検討、職員間で共有している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止及び身体拘束適正化委員会を定期的に開催し、指針の整備を行ったり、事業所内研修及び外部研修に参加する等、適切な対応をしている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、対象となる子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載し、身体拘束に関する同意書に署名をいただいている。該当事例が発生した場合、保護者に連絡ノート等で報告しご理解を得ている。また、報告書を作成して、今後の対応等を職員間で共有し、環境設定や事前の対応で回避できるよう努めている。